

# 持続可能な消費と生産パターン定着に向けたライフサイクル思考の役割

## Role of Life Cycle Thinking toward Ensuring Sustainable Consumption and Production Patterns

○平尾雅彦<sup>1)</sup>、中谷隼<sup>1)</sup>

Masahiko HIRAO, Jun NAKATANI

1) 東京大学

\*hirao@chemsys.t.u-tokyo.ac.jp

### 1. はじめに

環境研究総合推進費・戦略的研究（S-16）として実施されている「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」は、消費と生産の連携の強化、多様なステークホルダーの活動を通じて、SDGs の目標 12 である持続可能な消費と生産(SCP) パターン定着のための政策デザインを目標としている。生産側から環境配慮製品の優遇のような効率改善型政策や資源循環政策を検討する一方で、消費行動の変容を促す“充足型政策”についても議論している（図1）。こうした消費と生産を巻き込んだ政策デザインには、ライフサイクル思考が欠かせない。

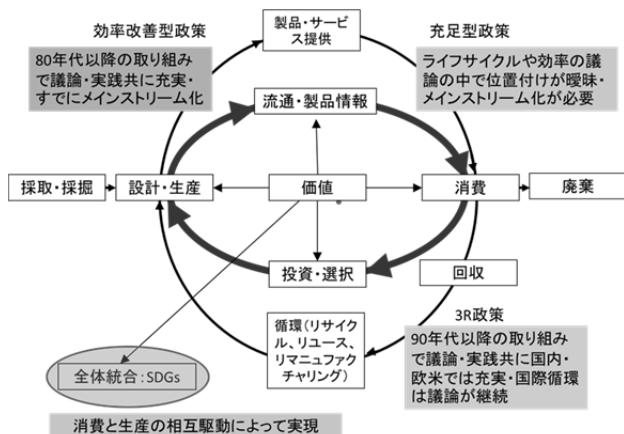


図1 消費と生産の相互駆動による持続可能な開発目標の実現（Vergragt et al.<sup>1)</sup> を参考に作成）

本企画セッションでは、日本LCA学会の第22回講演会（2016年12月）および2回の参加型討論会（2017年7月・11月）を通して提起された論点について、パネルディスカッション形式で議論する。

### 2. 第22回講演会の概要と提起された論点

第22回講演会では、幅広い分野の専門家から、アジアを含めた国際的動向、製品設計やライフスタイルといった様々な観点から講演するとともに、SCPパターンの定着に向けて企業や消費者の役割について議論した。

充足性アプローチのためには同じ状況で人が満足するかしないかといった精神世界にも踏み込む必要があるのではないかといった指摘や、各個人が消費側と生産側の

立場を持っている以上、消費と生産を分けて考えることに意味はあるのかといった指摘など、講演会の聴講者からも様々な問題提起があった。

### 3. 参加型討論会の概要と提起された論点

企業からの一般参加者と専門家との意見交換の場として、参加型討論会を企画・開催した。参加者がSCPにかかるトピックについて議論する中で、SCPおよびSDGsへの理解を深めるとともに、それぞれの参加者の関心や課題を共有し、参加者間のネットワークの深化を図ることを目的とした。

第1回の討論会は、「SCPとSDGsの関連性は?」「持続可能な社会の構築へ向けて産業界と消費者はどう貢献していくのか?」という2つのトピックを設定した。第2回は、「持続可能な社会の構築へ向けて主要課題と、その解決の方向性」「その中でLCAが果たせる役割と、それへ向けた現在の課題」をトピックとして討論した。

SDGsの中にも、企業にとって事業機会としてポジティブな意味をもつ目標と、事業リスクというネガティブな意味を持つ目標があるという視点が提起された。一方、教育現場においては、異なる問題の間のトレードオフ関係について説明することが敬遠されがちで、SDGsの目標間の相互関連性に着目した消費者教育の難しさが浮き彫りになった。さらに、消費者は“地球人”的立場で持続可能性について考えなくてはいけないのか、自分が居住する地域の持続可能性について考えれば十分なのかといった、根本的な議論から始める必要性が指摘された。

### 4. おわりに

SCPパターンとは、先進国が歩んできた消費と生産の増大スパイラルを繰り返すことなく、発展途上国を含めた世界全体の環境負荷や資源消費をプラネタリーバンダリー以下に抑えることである。そのためには、消費と生産が相互に駆動し、影響し合う社会の実現が求められている。

**謝辞** 本研究は、(独)環境再生保全機構の環境研究総合推進費・戦略的研究(S-16)により実施された。

### 引用文献

- 1) Vergragt, P. et al.: *Journal of Cleaner Production* 63, 1–12 (2014)